

**Statement by Mr. Norikazu Suzuki,
Special Envoy of the Prime Minister
and Parliamentary Vice-Minister for Foreign Affairs of Japan,
at PIF Forum Dialogue Partners Session
16th August, 2019 at Tuvalu**

ソポアング閣下,
PIF 参加国首相
域外国対話代表,
ご列席の皆様,

第50回PIF総会がここツバルで開催されることを、心よりお喜び申し上げます。また、この重要なフォーラムで、安倍総理の特使として、発言の機会をいただけることに感謝申し上げるとともに、議長国・ツバルのリーダーシップに改めて敬意を表します。

日本と太平洋島嶼国・地域は、豊かな太平洋の恵みを共に享受してきた隣人です。気候変動・海洋保全是、我々「太平洋人」にとって、共通の課題であり、共に闘うべき課題です。

先週、河野外務大臣が、太平洋島嶼国4カ国へ重要な訪問を行い、フィジーで「我々「太平洋人」のAOI未来のために」というスピーチを行いました。AOIは日本語で「碧い」の意味です。その中で、河野大臣が述べたとおり、日本は、「自由で開かれたインド太平洋」の要となる太平洋島嶼国向けコミットメントを増強する方針です。具体的には、①安定・安全の確保、②強靱かつ持続可能な発展、③人的交流・往来の活発化の次の3分野で、オールジャパンの取組を強化していきます。中でも海洋や気候変動・防災対策は重点課題として位置づけています。

気候変動分野における協力事例につき幾つかお話し致します。気候変動問題については、先般、PIFの協力も得て、PEC基金の全プロジェクトが終了しました。PEC基金は日本が2009年のPALM5で島嶼国向けに打ち出した約66百万米ドルの支援です。これにより、島嶼国各国において、太陽光パネルや海洋淡水化装置等の設置が行われました。各国で気候変動や環境問題等の共通の課題に対する貢献や基金に対し、高い評価を得たことを嬉しく思います。

日本は、また、COP21で発表した「美しい星への行動2.0（ACE2.0）」で約束した途上国支援を着実に実施しています。

海洋プラスチックごみ問題については、日本が今年6月末に議長を務めたG20大阪サミットで、海洋プラスチックごみによる追加的な汚染をゼロとすることを目指す「大阪ブルーオーシャン・ビジョン」を共有し、G20以外の国にもその共有を呼びかけました。このビジョン実現のため、安倍総理は途上国の廃棄物管理を支援する「マリーン・イニシアチブ」を立ち上げ、2025年までにフォーラム・メンバー国含む10,000人の廃棄物管理人材を育成することを約束しました。

日本と太平洋島嶼国・地域の未来は、太平洋を通じて密接に結びついています。日本は、共通の未来を共に思い描き、共に築き上げていける信頼できる隣人であり続けたいと願っています。皆様の声にしっかり耳を傾け、日本の強みを活かしながら、強靱かつ持続可能な地域の発展のため、皆様と一層緊密に協力していきたいと思えます。

ご静聴ありがとうございました。

(了)